

AXIS

concepts on the horizon

2 February
2014
vol.167

Cover interview

寄藤文平

Bunpei Yorifuji



Feature

クルマは想像を加速させる!

Cars accelerate the imagination!

Ronan and Erwan Bouroullec

—The car will continue to be personal



©Studio Bouroullec

クルマはそれでも、 パーソナルなものであり続ける

—ロナン&エルワン・ブルレック

—あなた方にとってクルマとは？

私たちにとってクルマは、移手段の1つです。

—クルマに関心を抱くようになった理由を教えてください。

プロダクトデザインやライフスタイルに関心を持つ者にとって、無視できない存在だからです。

なかでも、何をどのように組み合わせ、生産するのか、という点に深い興味があります。一方で、都市において人々がどのようにこれらを利用するのか、という関心もあります。単なる乗り物というだけでなく、スタイリングや内装面でも、街の歩行者らと価値を共有するものと考えています。

—現在、クルマを所有していますか？

クルマは持っていますし、ハンドルを握るのは好きです。でも、決して日常的に利用しているわけではありません。毎日アトリエに通うためにクルマを運転するといったように、習慣化するのが好きではないんです。

—公共交通機関を含めた他の乗り物にない、クルマの魅力はどう捉えていますか？

あえて魅力を挙げるとすれば、クルマそのものよりも、クルマの中から見える風景ですね。歩くよりも速いスピードで眺められる、いつもとは違う景色。そうした発見のできる移動が魅力的です。

—パリでは近年シェアリングカーも人気です。

確かにシェアリングカーは増えています。クルマの所有形態も徐々に変化していくと思いますが、それでもクルマはやはりパーソナルなものであり続けるような気がします。

—2013年のミラノサローネで、ゼロ・エミッションカーであるBMW iシリーズをテーマにしたインスタレーションを発表しました。このクルマからどのようなインスピレーションを受けましたか？

「クワイエット・モーション」のインスタレーションは、私たちが抱いている未来の電気自動車のイメージを表現することでした。つまり、「騒音の不在、静けさ」です。騒音や攻撃性の不

在をテーマとし、そのイメージを発展させて制作しました。

今までのクルマのデザインは、一般的にはテストステロンホルモン、つまり男性らしさ、強さやパフォーマンスを象徴するものだったと思います。でも、不思議なことに電気自動車からは、そういったイメージを抱くことはありません。また、たとえ少人数であれ、クルマの車内というのは他の人と分かち合う空間でもあります。そうした意識を観る人に感じてもらうことも、このインスタレーションの目的だったのです。

—電気自動車の登場によって、クルマに備わっていたロマンチックな要素が薄まるのではないかという声も聞かれます。

昔のクルマは、構造においても素材においても、今よりずっとシンプルでわかりやすかったと思います。例えばシトロエンの2CV。このクルマは、機能性を体現し、パカンスに旅立つという解放感、自由を象徴していた道具です。フィアット500も同じです。かつてはクルマそれぞれに明確なアイデンティティがありました。しか

フランスのデザイナーデュオ、ブルレック兄弟が、2013年のミラノサローネでBMW iのために「クワイエット・モーション」というインスタレーションを発表したことは記憶に新しい。EVならではの静けさやリラックス感を表現したこの作品には、彼らのクルマに対する思いなども体现されている。恒久作品としてヴェルサイユ宮殿にシャンデリアが設置された直後に、エルワン・ブルレックが、クルマへの思いを語ってくれた。

The QuietMotion installation that the French design team Ronan and Erwan Bouroullec created for the BMWi at the 2013 Milan Furniture Fair is still fresh in memory. The work expressed the quietness and relaxed aura unique to electric vehicles and was the embodiment of the brothers' feelings toward the automobile. Here, Erwan Bouroullec relates his thoughts about cars.

し、今は同じようなスタイルのクルマが増え、個性を感じさせるものが少なくなったと思います。そうしたなかで、将来の電気自動車が、新しいイメージをつくっていくことを願っています。

電気自動車におけるロマンティシズムについては、やはりその静けさからくる、他者に対するリスペクト、環境に対するリスペクト、そういったところからしみ出てくるのではないのでしょうか。

—最近のクルマの内装、インテリアをどう思いますか？

あまりにも無駄で不必要な細かい機能に溢れていますね。バックミラーを自動で折り畳める機構も含め、行き過ぎた多機能には「もうやめてくれ！」と言いたくなる。だからクルマのインテリアには辟易させられ、がっかりすることが多い。移動の足としてのクルマのライフサイクルは、せいぜい5年か10年ではないでしょうか。そう考えると、機能はもっとシンプルでいいと思います。私たちが椅子のような機能が少ないものをデザインする際は、むしろ素材や細部にひじょうに注意を払います。

—内装、インテリアに対してアイデアを提供できる機会があれば、どのようなデザインを発想しますか？

“ル・ミニマム”。

—あなた方が日々デザインするうえで、クルマから刺激を受ける点を教えてください。

興味深い点はいろいろあります。でも、未知の世界にチャレンジするよりも、自分たちがよく知る分野において、もっと考察を深めることのほうが大切です。クルマのデザインは物事を決め込んでいくものですが、私たちは動きに重きを置き、自然なかたちでの融合を大事にしています。デザインしたプロダクトが大きな空間でどのように場所を得るのかに興味があるのです。それは、クルマのインテリアデザインが抱かせる閉鎖性や固定性といったものとは対極にあると思っています。④

—What is the car to you and Ronan?

For us, the car is a means of movement.

—Do you own any cars at present?

I have a car, and I like being behind the steering wheel. Nevertheless, I don't necessarily drive everyday. I don't like making a habit of it.

—Car sharing has become popular in Paris recently.

Car sharing is certainly on the increase. The nature of car ownership is changing gradually, but I get the feeling it will continue to be a personal kind of thing.

—You unveiled an installation called QuietMotion on the theme of the BMWi series as the zero-emission vehicle at the 2013 Milan Furniture Fair. What kind of inspiration did the car give you?

It inspired us to express the image we had of the electric car of the future. In other words, quietness, the absence of sound. We developed and created that image on the theme of an absence of noise and aggressiveness.

Car design until now has typically symbolized testosterone; that is, strength, performance, and masculinity. Interestingly, electric vehicles do not project that image. Moreover, the interior of a car is also a space you can share with a small number of others. Giving people a sense of that was also a goal of the installation.

—Some people say the advent of the electric vehicle will dilute the romantic aspect of the car.

Cars in the old days were much simpler and easier to understand in terms of structure and materials. Take the Citroën 2CV for example. The embodiment of functionality, it is a tool that symbolizes freedom and the feeling of liberation one gets when setting off on a vacation. The Fiat 500 is the same. Although each car had its own clear identity once, more and more cars have the same styling, and few project any individuality. Given this situation, I hope the electric car of the future will create a brand new image.

As for the romanticism of the electric car, it will probably emerge from the respect its quietness extends to others and the environment.

—What do you think of the interiors of recent cars?

They are full of useless and unnecessarily detailed features. It makes me want to tell them

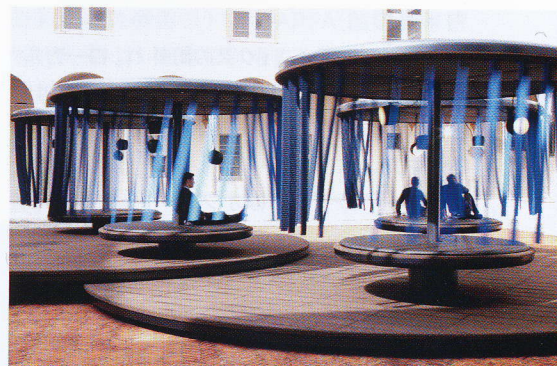
to quit making so many features, including the rearview mirror folding system. Car interiors cause me to wince, and I'm often disappointed. A car's lifecycle as transportation is just five to ten years, right? I think that means the features should be simpler. When we design things with few functions like chairs, we pay a lot of attention to materials and details.

—What sort of design would you create if you had the chance to provide ideas for a car interior?

It would be minimal.

—Are you and your brother inspired at all by the car in your day to day design?

Cars are very interesting in various respects, but rather than taking up challenges in fields unknown to us, we think it's more important to deepen our inquiry into fields we already know well. Car design predetermines many aspects of the product, but we place importance on movement, and we value fusion with nature. We are interested in how designed products acquire a place in large spaces. That, I think, is the polar opposite of the closed and fixed nature of car interior design. ④



©Tahon & Bouroullec

「クワイエット・モーション」は、円形のベンチがメリーゴーランドのようにゆっくりと静かに回転するインスタレーション。BMW i シリーズの車体に用いられるカーボンファイバーやレザーなどの素材を使い、静かな動きと心地よい時間を提供した。The installation QuietMotion comprised a circular bench that rotated slowly and quietly like a merry-go-round. It employed the carbon fiber and leather used in the body of the BMWi series and provided a quiet, pleasant ride.